

カギ内蔵、誤操作防ぐ

ガードロックが新機構

バルブハンドル

ガードロック(大阪府豊中市、南完治社長、06・6152・1830)は、施錠装置を内蔵したバルブハンドル機構を開発した。作業責任者が流量調節後に施錠すればハンドルが空転状態になり、第三者による誤操作などを防げる。月内をめどにバルブメーカーへ提案営業を始める。バルブの厳格な管理が必要とされるプラントや流量調整の正確性が不可欠な医薬製造向けなどで需要を見込む。価格は未定。

通常、バルブのハンドルは調整弁を動かす軸と直結しているが、施錠装置を介してつながる機構にした。解錠時に軸と施錠部が一体化しバルブ調

整ができる状態になり、施錠時は軸と分離しハンドル操作を不能にする。複数のバルブの鍵に共通性を持たせられ、担当者

施錠装置を内蔵したバルブハンドル



者が1本の鍵で複数箇所のバルブを管理できる。他の担当者とは鍵が異なるため、担当者の思い込みや疲労などで、誤って担当外のバルブを操作するようミスを防げる。現状、バルブの施錠はハンドルカバーなど外付け方式か、チェーンと南京錠による施錠が主流で、手間や解錠中の置き場所などが課題となっていた。同社は第三者が容易に接近可能な公共施設や屋外など向けでもマーケティングに着手。病室内の酸素ボンベバルブのほか、農業用水のバルブなどでも商用化を模索している。また、公園などの散水バルブなどで使用すれば、洗車など私用目的の無断利用の防止につながる」と予測している。